

鳥羽市賞



現代日本社会学部現代日本社会学科 2年
宮本 幸佳

| | |
|------------------------------|--|
| <p>定住自立に関する課題</p> | <p>鳥羽市の課題は離島人口の減少だ。</p> <p>国土交通省の「三重県離島振興計画」によると、離島の人口は年々減少しており、神島・答志島・坂手島・管島・渡鹿野島・間崎島の計6島の平成12年度と平成27年度の国勢調査のデータを比較すると、どの島も人口は15%以上減少している。</p> <p>この課題の原因の一つに、離島内に高校がないことが挙げられる。総務省「三重県鳥羽市『海辺のまち鳥羽出逢い応援事業』」には「島には高校がなく、(中略)子どもたちは中学校を卒業すると鳥羽本土や伊勢市、名古屋などの高校や専門学校へ進学し、そのまま島外の利便性の高い生活や、漁業とは別の仕事を求めて島に戻ってこないことが多い。」と述べられている。高校への進学の際には必然的に人口流出が起るため、定住人口が増加しにくいと考えられている。</p> |
| <p>その課題解決に利用できる資源</p> | <p>「三重県鳥羽市『海辺のまち鳥羽出逢い応援事業』」によると鳥羽市や鳥羽市の離島では漁業が盛んであり、豊かな水産資源を活用した課題解決が考えられる。また、鳥羽市の答志島には寝屋子制度という鳥羽市の無形文化財にも指定されている文化が残っており、「三重県鳥羽市『海辺のまち鳥羽出逢い応援事業』」には離島独自の生活様式の一つとして紹介されている。この寝屋子制度も離島の地域資源として活用したい。</p> |
| <p>あなたの考える解決策</p> | <p>私は漁業関係の高校または専門学校を離島につくり、進学目的の若者の転入者数の増加、あるいは進学の実選択肢を増やすことで離島の若者を転出者数を少なくしたい。そして、若者が定住するきっかけの創造も図りたいと考える。漁業が盛んに行われている鳥羽市の離島であれば、地域の漁師と関わることで漁業を本格的に学ぶことができると思う。その他にも、鳥羽市には市立水産研究所があり(典拠:Wikipedia「鳥羽市水産研究所」)、研究の面からも漁業を学ぶのに向いている地域だ。このような環境で学んだあとは、漁業の持続性の確立や卒業生の雇用を創造するために、そのまま離島で漁師として働くこともできるように環境も整備し、定住に繋げたい。また、答志島では寝屋子制度を体験するホームステイ制度のようなものを学習内容に取り入れることで、離島の文化を学ぶ機会を設けたい。このように地域住民との関わりを積極的に教育プログラムに組み込むことで、人口が減少している地域を盛り上げたい。若者が進学するために離島に移ってくるときには、就学支援として空</p> |

| | |
|--------------|---|
| | <p>き家を無料、あるいは学生料金で易く貸し出すなど、離島に移住しやすい環境の整備も行いたい。このように学習機会を提供し、地域の住民たちと交流し、離島の良さに気づいてもらうことで、離島人口の減少を抑えたい。</p> |
| 参考書籍等 | <ul style="list-style-type: none">●国土交通省「三重県離島振興計画」●総務省「三重県鳥羽市『海辺のまち鳥羽出逢い応援事業』」●Wikipedia「鳥羽市水産研究所」 |